

菊川西中だより

校長室の窓

寧為鶏口、無為牛後
井蛙不可以語於海
あなたは
どちらですか?!



柄にも無く漢文の表題を付けてみました。訓読すると前者は「むしろ鶏口と為るとも、牛後と為ること無かれ」で、出典は司馬遷の「史記」「蘇秦」編です。意味は「レベルの高い世界で、いつもビリでいるより、狭い世界でもトップになれ!」という事です。後者は「井蛙は以って海を語るべからず」で、出典は「莊子」の「秋水」篇です。意味は「レベルの低い世界で一番になって満足している者は、もっとハイレベルな世界があることを知らない」です。ニュアンスに多少の違いがありますが、2つの言葉は、ほぼ「反対の意味のことを述べている」のではないかと思います。実社会では前者の考え方も後者の考え方もあるということなのでしょう。

私はどちらかというとな後者の立場をとります。

右の写真は前任の河城小学校の子どもたちが「子ども自転車大会」に菊川署管内で優勝し、県大会に出場した時のものです。県大会で優勝すると東京で行われる全国大会へいけます。子どもたちは「校長先生! 全国大会へいけたらディズニーランドへ行きたいな!」とはしゃいでいます。結果は5位に終わり、全国への壁の厚さを味わいました。しかし県大会へ出場しなければ全国大会など全く知らない世界です。



私の初任校清水第五中学のことです。清水市(当時)はサッカーが盛んで、第五中サッカー部も三浦文丈、藤田俊哉など、後にJリーグで活躍する選手を4人擁し、全国大会の決勝までコマを進めました。当時三浦君は全日本ジュニアユースのキャプテンとして毎年海外遠征へ出かけています。サッカーは11人でやるスポーツです。1人や2人のスーパープレイヤーの活躍だけでは絶対に勝てません。しかし、日本の最高峰に位置する三浦君のサッカーに対する情熱や真摯な思いが他の部員に良い影響を与え、チーム力として実を結んだ事は言うまでもありません。決勝では残念ながら長崎県の明野中学に破れ、準優勝に終わりましたが、サッカー部の子どもたちはサッカーの技術以上のものをたくさん学ぶことができました。

現在高2の私の末っ子は4才の時から水泳をやっていましたが、小学校6年生の時「とびうお杯」という全国大会に出場することができ、それをきっかけに「また全国大会へ行きたい」という思いが募り、現在インターハイを目指してがんばっています。もしインターハイへ出場できたら彼はたくさんの事を学んで帰ってくるでしょう。

菊西中でも4月に女子4人と男子3人、3つのグループ(左写真は、そのうちの1つ)が校長室に来て「校長先生ブラックホールのことを話してください」と言います。私は中学生にも分かるようにと配慮しながらも、できるだけ正確に伝えられるように**重力場方程式**という**微分方程式(大学の学部から大学院レベルです)**も出して説明しました。子どもたちに「こんな世界もあるんだ!?!」と思って欲しいからです。(文責:校長)

